

フォーラム委員会だより

第 202 回 aaca フォーラム開催報告 「街とアートが織りなす出会いの場」 その 1

フォーラム委員会

7月9日に開催された第202回 aaca フォーラム「街とアートが織りなす出会いの場」(その1)は二部構成で行われ、前半は株式会社三菱地所設計の大会議室をお借りして、三菱地所設計で数々のプロジェクトを手がけられた萩尾昌則氏よりアートと一体になった再開発で変化し続ける丸の内についてご説明いただきました。丸の内の概要説明では、いきなりウルトラマンが現れ、丸の内がウルトラマンとシン・ウルトラマンの活劇の場になったお話、映画「シン・ゴジラ」でも丸の内が破壊されるという導入に参加者の皆様はお話に引き込まれていったようです。

丸の内再開発の魅力は、まずは街区づくりの歴史を継承していることです。明治23年岩崎彌之助が約十萬七千坪の土地を明治政府より払い下げを受け、ジョサイヤ・コンドルが携わった「一丁倫敦」から大正時代の「一丁紐育」の街並みへと移り変わった歴史があり、丸の内の再開発にはこの歴史的価値の継承による新たな価値の創造「継承設計」を踏まえたリレー・デザインにより街並みの表情が揃えられ、「第三世代の丸の内」開発では地元企業も参加した官民一体での街づくりが推進されています。そして街づくりでは「歩いて楽しい街」を目指して歩行者ネットワークがつけられ、大手町から銀座まで雨で濡れない地下道で移動可能な地下歩行者ネットワークが整備されています。そして何よりも高層建築の足元には、パリにある「パサージュ」のような歩いて楽しい、買い物が楽しい空間がつけられ、昭和の建築として初めて国の重要文化財に指定された明治生命館の保存再生(1934年竣工の「明治生命館」と、2004年竣工の「明治安田生命ビル」による街区再開発)では、丸の内の路地文化を復活させて、建物の内部空間に明治生命館が取り込まれて、丸の内のオフィスビルの低層部分が、街を訪れる人たちのオアシスになり、オフィス街が日曜、休日でも人が賑わう街になっています。



フォーラムの後半は、前半のレクチャー内容を体感すべく街へ繰り出しました。

そして新国際ビルと新日石ビルの谷間を活用した「有楽町スリットパーク」へ移動、従前薄暗く活用されていなかった路地であった場所を、光と緑溢れる空間に変え、キッチンカーや路外ショップが出店し、空間に躍動感をもたらしアートが設置されるなど有楽町エリアの新しい出会いのスポットになっています。スリットパークでは、この開発の企画・運営に携われた東邦レオ株式会社の原田宏美氏から、

- ・通路として利用されてきた路地裏空間をフルリニューアルし多目的な活動空間に転用
- ・トークセッションなどの会場機能やキッチンカー展開による飲食機能を整備
- ・wi-fi および電源を各所に完備し、執務空間として常時利用可能
- ・ワークショップなどを通じ、有楽町ならではのコミュニティ形成を促進
- ・有楽町で推進するアート関連の取り組みを始め、大丸有全体で催す各種企画と連携

などの開発の特徴をドリンクで喉を潤しながら伺い、時折ビルの谷間を流れる爽やかな風の中で時を忘れるひと時を過ごすことができました。次回のフォーラムも「街とアートが織りなす出会いの場」(その2)のテーマで11月25日(土)開催が予定されていますので、アートと一体になった街づくりのお話、街歩きをお楽しみください。



(文責：飯田郷介)